

学校関係者評価報告書

学校名：あいちビジネス専門学校

1. 学校目標

- (1) 本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を具現化し、社会人としてふさわしい資質をもち、社会発展に貢献できる人材を育成する。
- (2) 社会・企業からのニーズを取り入れ、必要とされる最新専門知識を修得させると共に、社会が求める人間性を培い、周囲から信頼され、健全な社会感・人生観を持った人材育成教育を実施する。
- (3) 変化の激しいビジネス社会に対応するため、企業・関連団体との連携を密にし、日々進化する社会に対応できる考え方を持ち合わせた人材育成を行う。
- (4) 教職員は、学生の伴走者であることを自覚し、学生個々の将来像を見据えた教育を行う。

2. 学校目標に対する評価・意見

- ・資格取得実績や就職率は高水準であり、社会人として「感じの良い人」を育成する取り組みも着実に進めており、専門学校として社会から求められる役割を果たされていると思います。
- ・学校運営面において情報システム化等による業務効率化が十分でない点は、IT ビジネス科を有する教育機関としても、今後の取組みとして挙げられた事項を着実に進めていただきたいです。
- ・新しい技術をいち早く授業に取り入れられていると評価します。
- ・退学抑止ならびに欠席過多な学生への対応が十分されています。
- ・高い就職率は教育活動の成果と、就職実績を積み上げてきた成果だと思います。就職率だけではなく、より良い就職実績が増えるよう継続して取り組んでいただきたいです。
- ・入学を検討する学生や保護者は、取得可能な資格や合格率、就職率、退学率は必ず確認する項目かと思います。昨年同様、資格取得数や就職率は高く、これを維持することが入学希望者増加にもつながると思います。
- ・少子化進展でいずれの教育機関も学生確保に厳しい状況にある中、適切な広報活動を実施され学生募集活動を効果的に進められている点は高く評価できると思います。
- ・全般的に適切な評価がなされていると理解できます。
- ・課題だと挙げられている事項への実現を期待したいです。
- ・自己評価に関して、どの基準も適切に評価され、各種情報がオープンである事も合わせ信用できます。

3. 学校自己評価報告書についての評価

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
4 : 適切な評価である	4 : 十分適切な取組みである	4 : 十分な効果が期待できる	
3 : ほぼ適切な評価である	3 : ほぼ適切な取組みである	3 : ほぼ十分な効果が期待できる	
2 : やや不適切な評価である	2 : あまり適切とはいえない取組みである	2 : あまり効果が期待できない	
1 : 不適切な評価である	1 : 適切とはいえない取組み	1 : 効果は期待できず、改善を要する	
基準 1 (教育理念・目標)	4.0	3.9	3.9
基準 2 (学校運営)	4.0	3.8	3.8
基準 3 (教育活動)	3.8	3.5	3.6
基準 4 (学修成果)	4.0	3.3	3.3
基準 5 (学生支援)	3.6	3.3	3.0
基準 6 (教育環境)	3.9	3.5	3.6
基準 7 (学生の受入れ募集)	3.9	3.9	3.8
基準 8 (財務)	4.0	3.9	4.0
基準 9 (法令等の遵守)	4.0	3.8	3.9
基準 10 (社会貢献・地域貢献)	3.8	3.3	3.3
基準 11 (国際交流)	3.8	3.6	3.6

4. 今後の改善方策について

- ・生成 AI に関して今後積極的に利用を試みることだが、個人情報をどこまで利用してよいのか明確なガイドラインが必要。教職員、学生(ご家庭)双方が理解し、利便性だけでなくリスクの理解と共に倫理観の形成も行っていただきたい。導入の際には、一部学校規則の改定も必要になると考えます。
○生成 AI の活用には利便性の裏側に潜むリスクの把握と、高い倫理観が不可欠であることを認識し、教職員、学生双方が、AI をツールとして使いこなすためのリテラシー教育を推進してまいります。学校規則の改定についても、学習の公平性を保つ観点から検討を進めています。
- ・「診療報酬請求事務能力認定試験」の廃止があらわすように、医療事務としての役割が変わってきている。時代に合わせた人材を育成できるようにカリキュラムの見直しも検討が必要だと思われる。
- ・さらにコミュニケーションの重要性、コミュニケーション能力の育成をよろしくお願いします。
○医療事務の役割はデジタル化と AI の普及により、単なる事務作業から対人支援と IT 活用を軸としたより専門的な職種へと変化しています。これは医療事務に限ったことではありません。コミュニケーション能力を基礎とする対人支援、IT 活用能力の向上をさらに意識した取り組みを実施していきます。
- ・単位制は、学生からすると「専門士」として大学編入資格が得られるメリットがあり、貴校としても単位制への移行を積極的に進めることで「選択肢の多い進路」として学生募集に有効に働くと思います。
○単位制への移行を円滑にすすめていきます。

- ・単位制の移行にあたっては、学年制だからフォローできたことができなくなるといったことも考えられるため、授業の構成だけでなく、学生支援の側面からも考慮されることを推奨します。
 - 制度の変化が、学びの質の低下に繋がることはあります。単位制への移行後も、一人ひとりに寄り添う伴走型支援をさらに深化させていきます。
- ・卒業生へのヒアリングに障壁(卒業後の個人情報の取り扱いについて在学中/入学時の取り交わし等)が存在しないのであれば、即座にヒアリングを行うべきと思われます。
- ・卒業生との定期的かつ効果的なコミュニケーション手段の確立と実行をまずはできるところから取り組んでください。
- ・卒業後も学生をフォローすることで、情報収集ができるとともに、就職先を安定して確保することができると思います。
 - 卒業生へのヒアリングを開始しました。その手法については今後も改良を加えていきます。
- ・高等学校の先生方を対象とした講座や、インターンシップなど、今後も継続して行えるとよいかと思います。
 - 東海4県の商業高校を中心に今後も継続実施していきます。
- ・医師会認定の医療秘書資格が、医師事務作業補助者の講習免除ということを、卒業生にどうアナウンスしていくのか検討が必要かと思います。
 - 校友会のホームページでのアナウンスのほかに実施できることを検討いたします。
- ・高校生のイメージと専門学校で履修する内容や現場のイメージへのギャップが生じた際の進路変更や学部変更等が可能な形を校内だけでなく法人内にて取り組める形があると学生だけでなく他校や他法人との差として魅力となり得るのではと考えます。
 - 単位制導入により柔軟な対応が可能になることが想定されます。今後検討を行いたいと考えます。
- ・卒業後、就職後に相談や支援ができる学校であって欲しいです。
- ・卒業生を含む社会人向けの講座、勉強会の実施には、時間的な制約も強いと思われます。夜間、早朝の講座を行うために教職員の勤務体系も一部見直しが必要かと思います。
 - 卒業してからも学校との関係を維持できる体制づくりを今後も模索していきます。
- ・就職活動の前に実習を行う事で仕事内容が具体的にイメージでき、実際に働きはじめた際のミスマッチが起こりにくくなる。また、医療業界も就職活動の時期が早まっている。実習中の評価で採用に繋がる場合もあるため、実習時期の変更は必須だと思われる。
 - 就職活動時期より前に実習が実施できるよう医療機関に協力を依頼していきます。
- ・社会人の受け入れを拡充し、再度学べる場をご提供いただければと思います。
 - 社会人経験者や大学出身者のオープンキャンパス、相談会などへの参加も増加傾向にある。引き続き再進学検討者向けの情報提供も行っていきます。
- ・赤字病院増加のニュースが流れてくる中、医療事務を目指す学生が減少していく可能性があります。高校訪問やオープンキャンパスを通して医療事務の魅力を伝えていく必要がある。
 - 医療事務系の求人は多数お寄せいただきいており、就職も好調である。高校訪問はもちろんですが、SNSなどでも情報提供も積極的に行っていきます。
- ・社会貢献、地域貢献する活動(ボランティア等)を積極的に行っていただけたら良いと思います。
 - ボランティアについて情報提供を継続して行っており、個々の学生はボランティア活動に参加している。今後も情報提供を行っていきます。